（C）日刊スポーツ新聞社

女子団体優勝の麗沢。左から浅野咲希、佐藤杏莉、吉沢柚月

優勝の埼玉栄高。左から鈴木、斉藤、岩井

麗沢 女子 V 埼玉栄 男子

関東高校ゴルフ選手権特別大会

◇10月31日◇男子＝栃木・那須野ケ原CC（6710ヤード）女子＝同・琵琶池GC（6202ヤード）◇各パー72◇参加＝団体男子23校、同女子22校、個人男子108人、同女子109人

団体男子は埼玉栄が4年ぶりに関東王者に返り咲いた。鈴木隆太（3年）が個人男子優勝となる5アンダー67をマーク。チームは3人合計1アンダーで2位共愛学園に3打差をつけた。団体女子は麗沢（千葉）が同5アンダーで優勝。個人女子は埼玉栄の岩井明愛（あきえ＝3年）が6アンダー66で制した。団体は男子14、女子10校が全国特別大会（12月17～18日、三重・白山ヴィレッジGC）に進出。個人は男女各11人が全国選抜マッチプレー選手権（12月8～10日、沖縄・カヌチャGC）への出場資格を得た。

鈴木個人と2冠

埼玉栄が、チーム3人目の鈴木のビッグスコアで混戦模様の展開から一気に抜け出した。「隆太さんがいいスコアで回っていたのは知っていた」と、つわものぞろいの埼玉栄の中から1年生でメンバー入りした斉藤隼人、岩井光太も安心して出迎えた。

5アンダーで個人優勝も果たした鈴木は「今日はパーパットが入りまくりました」と笑顔を見せる。前半、1、2、4、5番で「3～4メートルぐらい」のパーパットが入った。これで波に乗った。5バーディー、ボギーなしの67。「会心、ウーン…苦しみながらって感じですけど」と振り返った。

今年の団体戦はコロナ禍で特別大会となり、1日競技、チームも3人で全員のスコアを採用となったため、1打1打気を抜けない。その中で先陣の斉藤が6番で10メートルを入れるなどパープレーで回って勢いをつけた。「オーバーパーだけ打たなければ、隆太さんがいると思いました。ショットがひどかったけど、頑張りました」と話した。

2人目の岩井は15番でバーディーを取り、それを後ろの組の鈴木も見ていた。「1オーバーになったので、もう1つ行けるかなと思った」というのが気負いになったのか17番で左の池に入れてダブルボギー、18番でもグリーン右に外してボギーの上がりになり「取り返そうと焦った。優勝できてうれしいけど、一番貢献できず悔しくもあります」と76にちょっとうつむいた。

力合わせた結果

鈴木は「関東で3年間優勝できなかったのでうれしいです。みんなが力を合わせてくれた結果。スコアどうこうではなく、団結力が大事」と後輩に言葉をかけた。斉藤、岩井が「全国では貢献したい」というのに対し、鈴木は「おれ、全国はだめなんだよなあ」。全国特別大会でも「団結力」を示したい。

個人男子で優勝した埼玉栄・鈴木隆太

「メイド・イン・群馬」共愛学園2位

「メイド・イン・群馬」の共愛学園が、混戦の中で2位に食い込んだ。1アンダー71で回った1人目の西山大翔（3年）は「OKバーディー2つ。ショットがついてくれました。約1・5メートルとしぶとい距離のパーパットも入ってくれた」と振り返った。

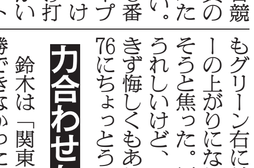
男子部員は8人（3年4人、1、2年各2人）と少なく、全員が群馬出身。5、6番連続バーディーなど前半1アンダーで回ってチームに弾みをつけた2年生の小屋将一朗は「先輩の思いも胸にプレーしました。全国に行けば4人で出られるので」と話した。

前半38をたたいた半田怜士（3年）は、後半は12番で手前カラーから10メートルをパターで直接入れるなど36と盛り返した。「（2位は）もったいない部分もあったので、小学校からやってきた仲間と全国でもう1回挑戦したい」。少数精鋭の幼なじみ軍団が、優勝目指してもうひと暴れしたい。

男子2位の共愛学園。左から小屋、西山、半田

日本ウェルネス3位

…日本ウェルネスは各学年1人ずつの構成で臨んだ。1アンダーで回った3年の亥飼台は最終9番パー5で10メートルに2オン。これを決めて「1ピン膨らますフックライン。最後のひと転がりで入りました。イーグルが（順位に）効くと思いました」と笑顔を見せた。2年の大野倖も右ドッグレッグの5番（357ヤード）でワンオンを狙って「ピンまで6ヤードぐらいが入った」と、イーグルで1アンダー。そんな2人の活躍に、77をたたいた1年生の細谷幹は「すいません。僕が普通にやったら優勝できたのに」とがっくり。先輩たちに慰められていた。


男子3位の日本ウエルネス。左から大野、亥飼、細谷

◆関東男子団体成績◆

順位	校名（県名）	学年	合計
❶	埼玉栄	埼玉	215
	斉藤隼人	①	72
	岩井光太	①	76
	鈴木隆太	③	67
❷	共愛学園	群馬	218
	西山大翔	③	71
	半田怜士	③	74
	小屋将一朗	②	73
❸	日本ウェルネス	茨城	219
	細谷幹	①	77
	亥飼台	③	71
	大野倖	②	71
❹	開志国際	新潟	220
	清水大翔	③	69
	鈴木雄大	①	73
	関駿斗	③	78
❺	西武台千葉	千葉	220
	小林拳史郎	③	73
	小林大河	②	73
	斎藤光	②	74
❻	早実	東京	221
	柏俣結生	②	74
	平山幸作	①	75
	竹原佳吾	②	72
❼	佐野日大	栃木	222
	塚原悠斗	③	74
	康翔亮	②	73
	佐藤卓郎	③	75
❽	代々木	東京	224
	島貫海輝登	①	75
	吉田京介	①	70
	佐藤友哉	③	79
❾	作新学院	栃木	224
	飯田要	③	73
	石川巧	②	73
	鬼澤遥希	③	78
❿	浜松日体	静岡	224
	新垣厚樹	③	75
	難波大翔	②	73
	神田悠貴	①	76
⓫	ルネサンス	茨城	229
	三浦隆治	②	72
	吉津谷彩人	②	82
	平野¥誠一	①	75
⓬	千葉黎明	千葉	230
	大岩慶尚	①	78
	鄭優星	③	73
	坂田一真	②	79
⓭	拓大紅陵	千葉	239
	菅野義稀	③	80
	種村芽久	①	79
	熊谷拓海	②	80
⓮	厚木北	神奈川	241
	久保田堅士	③	83
	佐藤友樹	①	83
	渡辺絢心	③	75
～以上、全国大会に進出			
⑮	明大中野	東京	242
⑯	正智深谷	埼玉	242
⑰	湘南学院	神奈川	243
⑱	法政二	神奈川	246
⑲	立教池袋	東京	246
⑳	堀越	東京	248
㉑	埼玉平成	埼玉	251
㉒	日体大荏原	東京	252
㉓	駿台甲府	山梨	257

佐藤杏莉が自己ベスト更新67

一昨年以来2度目

麗沢は佐藤杏莉（3年）が自己ベストを1打更新する67をマークし、一昨年夏以来の2度目の関東団体優勝を勝ち取った。圧巻は自身初となる4連続バーディー。前半の11～14番で勢いに乗った。「ドライバーの調子が良くて、フェアウエーをキープできた。運も良かった」。13番パー4で8メートルのロングパットを沈めると、14番パー4では2打目をピッチングウエッジでピン奥2メートルにつけ、フックラインを読み切った。

これまでの自己ベスト68は先月出したばかり。上り調子の中で臨んだ今大会は3人チームで「団体優勝を目指した」。佐藤は個人的には「（パー5の）ロングでバーディーを取るのを目標にし、4ホール中2個しか取れなかった」と反省しつつも「みんなが頑張ってくれた。埼玉栄に勝ってびっくりした」と、強豪に2打差を付けての勝利を喜んだ。

1年生だった一昨年の夏、当時3年だった吉田優利、長野未祈、同2年だった西郷真央とともに団体優勝を経験している。「一昨年はすごく打っちゃったので、今回リベンジできて良かった」と笑う佐藤。12月の全国大会に向け、早くも自身にネジを巻いた。「全国は関東よりレベルが高くなるのは分かっている。メンバーが、それぞれのベストスコアを目指して、上位に入れたら良いと思う」と3年生らしく話した。

2年生の2人は、吉沢柚月が「今回のように足を引っ張らない」と言うと、浅野咲希は「今日みたいなミスは起こさない」と反省した。そして、「上位を目指します」と佐藤と口をそろえていた。

後半の1番で第1打を放つ麗沢の佐藤杏莉

岩井明愛が女王

双子の岩井姉妹の姉・明愛が、自身初となる1ラウンドで2発のイーグルを奪った。スコアは4バーディー、2ボギーを加えての6アンダー66。日本女子オープンローアマ（2アンダー14位タイ）の実力を発揮した。とくに前半のインは「ショット、アプローチ、パットの全部が良かった」という完璧な内容。10番でバーディー発進すると、11番500ヤードのパー5で最初の見せ場がやってきた。残り220ヤードの第2打は5番ウッドでグリーン手前のバンカーに入れたが、そこからチップインイーグル。そして、後半6番494ヤードのパー5でもイーグルをマークした。今度は残り198ヤードを6番アイアンでピン左3メートルにつけ、「若干のスライスライン」を読み切った。コロナ禍もプラス思考で過ごした。「試合がない分トレーニングができる」と体幹を鍛え「背筋が強くなった」。来春に開催が見込まれるプロテストを受験する。「今までやってきたことを出して、妹の千怜（ちさと）と共に一発合格したい」と目を輝かせた。

後半1番でバーディーの埼玉栄・岩井明愛

関口女子個人3位

女子個人3位の関口碧（埼玉平成1年）は前半4バーディー、ノーボギーと満点のゴルフ。後半は2バーディー、1ボギーにまとめた。「前半は全ホールパーオンでした」とベストスコア66に迫る出来の良さに心はすでに沖縄へ。「マッチプレーは初めてなので頑張りたい」とやる気を見せていた。

埼玉栄団体は2位

…埼玉栄の団体は2位。ダブルエースの岩井姉妹の出来がいまひとつで、麗沢に2打及ばなかった。橋本名誉監督は麗沢の優勝を祝福すると同時に「優勝するなら全国」と気持ちを切り替えていた。

女子個人優勝の岩井明愛（中央）と団体2位埼玉栄メンバーの岩井千怜（左）中沢瑠来

3位には代々木

麗沢、埼玉栄に続く団体女子3位には代々木（東京）が食い込んだ。立役者はともにパープレーの3年生コンビで、そろってパットの悪さを反省した。それでも、千田萌花は「全国大会でリベンジしたい」、五十嵐望夢は「最後の全国に行けて良かった。みんなの足を引っ張らない」と今回の教訓を生かす覚悟を見せていた。

◆関東女子団体成績◆

順位	校名（県名）	学年	合計
❶	麗沢	千葉	211
	浅野咲希	②	70
	吉澤柚月	②	74
	佐藤杏莉	③	67
❷	埼玉栄	埼玉	213
	中澤瑠来	②	73
	岩井千怜	③	74
	岩井明愛	③	66
❸	代々木	東京	217
	五十嵐望夢	③	72
	千田萌花	③	72
	高木りおん	②	73
❹	開志国際	新潟	218
	芳賀幸瞳	①	73
	大塚由姫乃	①	75
	上原和	③	70
❺	西武台千葉	千葉	218
	栗林夏希	①	72
	斎藤里奈	②	72
	片瀬すず	③	74
❻	千葉黎明	千葉	219
	吉田鈴	②	73
	渡辺世奈	①	74
	阿部未来	③	72
❼	ルネサンス	茨城	220
	林亜莉奈	③	76
	佐野楓	③	71
	堀川雪花	①	73
❽	明秀日立	茨城	221
	佐藤心結	②	70
	新谷芽々	②	73
	西澤歩未	③	78
❾	日本ウェルネス	茨城	221
	佐藤夏恋	①	72
	高橋琴音	②	75
	リン優香	③	74
❿	拓大紅陵	千葉	224
	秋元彩葉	①	75
	渡辺さくら	①	79
	星野瑠菜	②	70
～以上、全国大会に進出			
⓫	共立女二	東京	228
⓬	佐久長聖	長野	230
⓭	聖徳大女	千葉	230
⓮	新潟産大付	新潟	235
⓯	埼玉平成	埼玉	240
⓰	共愛学園	群馬	242
⓱	湘南学院	神奈川	250
⓲	日大一	東京	259
⓳	日体大荏原	東京	263
⓴	日大	神奈川	264
㉑	厚木北	神奈川	267
欠場	前橋育英	群馬	

※順位は各校3人の合計による。同数の場合はベストスコアの差による。さらに同数は2番手のスコアの差による

◆関東男子個人上位成績（全国高校マッチプレー進出者）①鈴木隆太（埼玉・埼玉栄3年）67（34・33）②中嶋翔生（埼玉・埼玉栄3年）69（37・32）③清水大翔（新潟・開志国際3年）69（34・35）④吉田京介（東京・代々木1年）70（37・33）⑤林恭平（神奈川・湘南学院3年）70（33・37）⑥西山大翔（群馬・共愛学園3年）71（38・33）⑦亥飼台（茨城・日本ウェルネス3年）71（35・36）⑧竹原佳吾（東京・早実2年）72（38・34）⑨斉藤隼人（埼玉・埼玉栄1年）72（38・34）⑩佐野健太（静岡・暁秀2年）72（37・35）⑪芳崎陽紀（神奈川・法政二3年）72（36・36）⑫仲宗根寛瑛（神奈川・神奈川総合3年）72（35・37）※7位の亥飼が出場辞退で12位まで進出。

◆関東女子個人上位成績（全国高校マッチプレー進出者）①岩井明愛（埼玉・埼玉栄3年）66（35・31）②佐藤杏莉（千葉・麗沢3年）67（35・32）③関口碧（埼玉・埼玉平成1年）67（35・32）④内山愛梨（静岡・浜松商業3年）67（33・34）⑤横山珠々奈（栃木・宇都宮文星女子2年）69（33・36）⑥上原和（新潟・開志国際3年）70（38・32）⑦高野愛姫（埼玉・埼玉栄1年）70（36・34）⑧星野瑠菜（千葉・拓大紅陵2年）70（35・35）⑨阿曽帆夏（新潟・開志国際2年）70（35・35）⑩佐藤心結（茨城・明秀日立2年）70（34・36）⑪大郷光瑠（埼玉・埼玉栄1年）70（34・36）

〈主催〉関東高等学校ゴルフ連盟、日刊スポーツ新聞社〈後援〉関東ゴルフ連盟ほか〈協賛〉住友ゴム工業（ダンロップ）